

学び上手になる ロードマップの活用

食農プログラムを通じて、身体感覚を伴う実体験を積み重ねていく子どもたち。彼らが五感を働かせ、考え、学んでいくプロセスは多くの気づきや発見をもたらします。わたしたちは、そんな子どもたちが自ら学びをより深く、豊かなものにしていけるようサポートツールを開発し、活用しています。

「学び上手になるロードマップ」とは？

教育現場では、学習目標の達成度を確認するために、評価の観点と段階的な達成度合いを表で示した「ルーブリック」という評価基準が活用されています。このルーブリックをアレンジして、食農プログラムを通じた学びをサポートするオリジナルのツール「学び上手になるロードマップ」を設計しました。わたしたちが考える「評価」は自己評価が基本。食農プログラムに取り組む子どもたち一人ひとりが、自分の立ち位置を把握し、自らを動機づける道しるべとなるよう運用しています。

ESDの観点で捉える食農教育の可能性

ロードマップを設計するうえで参考にしたのがESDと呼ばれる「持続可能な社会をつくるための教育 (Education for Sustainable Development)」の観点です。この数年で改訂が行われた学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられるようになり、学校教育現場でのESD実践がひとつの課題になっています。

ESDでは、持続可能な社会を見据え、ものごとのつながりを体系的に理解しようとする思考力や正解のない問いに対して自分なりの解決策を見出して実行する姿勢、そして多様性を大切にできる態度などを重要視しています。これらは、食と農の営みを探究し、いのちの循環に触れる食農教育で培っていける思考力や態度と重なります。ロードマップを活用しながら、子どもたちの学びを支えていくことは、ESDに資する食農教育の可能性を探り、広げていくことにつながると考えています。



「学び上手になるロードマップ」へ

学び上手になるロードマップの使い方

子どもたちが食農プログラムでの活動を振り返り、自分自身の学びのステージを確認するサポートは、積極的に行いたいものです。「学び上手になるロードマップ」は、内省の材料にしたり、子どもたち同士が対話を通じて感想を共有したりするときに有効です。子どもたちが言葉や絵で自由に表現する気づきの記録は、先生やスクールフードコーディネーターが、プログラムをチューニングしていく際の検討材料にもなります。数ヶ月にわたるプログラムでは、以下のような段階的なプロセスを踏むのも一案です。目的に応じてワークシートやインタビュー、アンケートなどのツールをぜひ取り入れてみてください。

	プログラム スタート前	継続的な 活動中	プログラム 終了時
目的	期待値の確認 知っていること の確認	体験ごとの 小さな気づきの 記録	一連の体験から 得た気づき・学び の整理
子どもたちの 様子	「ワクワク」 「できるかなあ」 プログラム参加への 気持ちや態度を 自己認識する	「どうしてだろう？」 気づきや問いを 自分の言葉で 表現する	「もっと調べて みたい！」 探究心を持って あらたな学びを 重ねていく
先生・ スクール フードコー ディネーター のサポート	プログラムの ねらいや、学びの 姿について 関係者間で 目線合わせをする	子どもたちの 様子を観察する 気づきを記録する ためのワークシート を用意する	子どもたち同士の 対話の時間や アンケートなどで 気づきを表現する 機会をつくる